

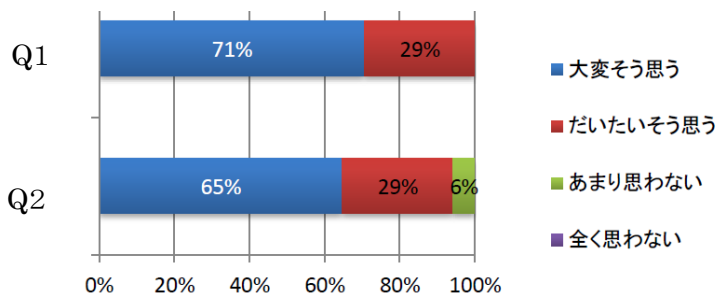
高校生がとらえる福島現状と復興 アンケート結果

2019/10/14

生徒17名のデータ。

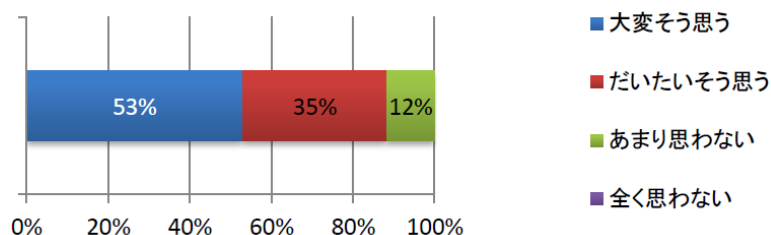
Q1 あなたの、福島の現状についての理解度は高まりましたか？

Q2 あなたの、福島の現状についての関心は高まりましたか？



Q3

研修全体について、満足しましたか？



Q4 今日新たに学べたことを何でも書いてください。

学年	回答
1	原発に対して、肯定的な意見を持つ人もそれなりにいるということ。
1	よく相手の意見を聞きつつ、おかしなところを見逃さない(批判的に意見をのべる)ことの大切さ
1	六ヶ所村やイギリスでの原子力発電やそれに関連した産業への視点 リーダーには先を見通す力が必要で、例えば、パンクしないタイヤを作ろうとするのではなく、タイヤがパンクしてもすぐに直せる力があるということが重要だということ。 教えてもらうことがすべてではなく、学んだことから新しい視点が生まれることが大切。 原子力教育を小さい頃から行うという考え
1	イギリスでの廃炉のイメージはクリーンなもの 原発事故被災地域の方々の生の現状、原発事故や廃炉に対する思考の違い、自ら考え、意見を持ち、伝え行動することの大切さ、原発に対する国外の考え方など
1	・廃炉の現状 ・ウエストレイクアカデミーについて
1	・J ヴィレッジについて 廃炉作業はどうしても専門の技術者の方たちが取り組む課題というイメージを持っていましたが、実は原発周辺の地域全体で関わるのが大事だということを学びました。セラフィールド社では 9000 人もの作業員がそ

の地域に住み、同僚を家族のように大事に思っているし、自分たちの仕事をとても誇りに思っているというお話がありました。原発周辺に住む方々が原発の現状や廃炉の進め方などを正しく理解することは、その後の廃炉作業をスムーズに繋げることに大きく貢献できると思いました。

今日学んだことは、せっきくの経験はそのままにしない方がいいということです。今回発表して下さった生徒さんたちは、ただ、セラフィールドに行って自己満足して帰ってきたわけではないんだということがとても分かりました。きっと、イギリスでの研修で聞いたことや感じたことを一つ残らず吸収し、持ち帰ったものを議論などを重ねて、深いものにしてきたんだと思います。私も今まで沢山の放射線関係の活動に参加させてもらいましたが、メモを取ったりせず、ただ、あぁすごかったな、というので終わっていました。せっきくの経験を今までないがしろにしていたような気がして、とても反省しました。こうやって発表する機会がなくとも、自分の未来への糧になることは確かなので貴重な経験を今度からは、もったいないものにしないようにしたいと思います。

- 1
 - 原発はテロの標的になりやすい
 - 放射線に関する教育の場を設けることが大切だと感じる人が多い
 - カンピリアでは、羊の数え方が特殊
 - 廃炉をブランド化するという見方
 - 廃炉によって発展する産業もある
-

- 1
 - セラフィールドの人は、原発に愛着を持っている
-

- 1
 - イギリスの学校の教育の形
-

他国の高校生と交流する事で、自分達が気付かなかった視点を得ることができ、また実際に被災地へ行って

1 みることによって現場を理解する事ができた。

- 1
 - 福島に原子力などを学ぶ大学を作るというののおもしろいと思った
-

- 1
 - イギリスとの原発への考えの違いに関しての理解がより深まりました。
-

海外にも放射線の事を知ろうとしてくれる人がいて嬉しかった

パネルディスカッションで、震災を経験した人がそれを伝えるとあったが、原発の近くに住んでいた人でないと良く伝わらないと思った

- 1
 - 海外では原発の存在は肯定的であることは意外だった
-

パネルディスカッションで、たくさんの生徒の方々が様々な意見を述べていて、私には考えもつかないような考えが沢山あることを学び、感動しました。

確かに私自身も小中の放射線教育にはあまり興味がなく、寝てる生徒も見受けられました。そんな中で、戦争時の映画と同じように、少しでも興味を持てるような取り組みが必要であることが分かりました。

日本では廃炉作業に後ろめたさを感じていますが、このイメージをより良いものに変えていくためのブランド化が大切であることも学びました。

- 1
- 日本のエネルギー事情について

そう簡単に廃炉と言っても、エネルギーの供給はどうする？

- 2
- 情報発信

広く、深く、常識化されることが大事

- 3
- これからの福島について

- 2
 - 原子力専門の大学を作る 女性の雇用を積極的に
-

• イギリスの働く人達は自分の仕事に誇りを持って【わが子】と呼んでいたということを聞き、そのイギリスの方達の考え方はとても素敵だなと思った。

- 2
 - 【情報は伝えるのではなく伝わるのが大事である】という言葉聞いた時、たしかに自分が伝えたつもりでも
-

人には伝ってないこともあるので、伝え方が大事だということを噛み砕いて理解し、とても深い言葉だなって思った。

・また実体験した人から直接話を聞くことは誰かを仲介して聞くよりも印象に残るものであるという考えを聞き、福島のこと次世代に伝えるためには、まず経験した私たちが学び、しっかり伝えなければならないと思った。

・女性社員の働き方についての議論もとても考えさせられた。

Q5 今日の会の感想を書いてください。

1 イギリスの方々の原発に対する考えを、発表者を通じて知ることが出来ました。観客とのディスカッションの時間がもう少しあると良かったです。

とても有意義でした。

1 一番脱原発を叫んでいるイメージの強い福島県民(私を含め)が、様々な機会を経て、原発の必要性も理解した発言をするようになったのが印象的です。

1 今までは福島県内の視点や問題について考えることが多かったが、この講演で六ヶ所村やイギリスでの原子力発電やそれに関連した産業への視点、現在の廃炉に関連するアイデアやそれに対する視点などをたくさん学ぶことができ、自分の視点を大きく広げられてよかった。

私は今回の報告会では、他の高校生の発表を聞くだけで、とても受動的になってしまい、自分の意見をしっかり持つことは難しかったです。

学ぶことばかりで、自分から疑問が出るまでに至りませんでした。

しかし、発表をしていた人たちは、基盤こそ同じだけれどそれぞれが独自の考えで意見を交わしていて、とてもかっこよかったです。

大学と企業との連携を増やしたほうが良いという意見は、まさにその通りだと思いました。

私自身、将来の夢が決まっていなくて、その原因のひとつに大学に入ったからといって職業がきっかり決まるわけでもなく、最終的に決まるのは自分の就職活動次第なのではないかと思ってしまうというのがあります。

大学と企業が密接に連携して、大学の在学中から職業訓練ができる体制があれば、私たち高校生が進路を決める助けにもなると思います。そのひとつに原子力関係の企業と大学が提携を結べば、より良い人材育成が早い段階で可能になるのではと思いました。

私は探求のテーマに、復興とは何かというのを設定しています。被災した状態からゼロに戻すのではなく、被災当時よりも発展した状態にするのが復興なのではと班で話していたのですが、そのために必要な地域の教育、環境整備、経済、雇用にはどんな目標があればいいのか、今回の報告会で少し見えた気がします。

1 今日は本当に来てよかったと思いました。

今まで、原発事故や復興に関しては、〇〇省とか〇〇庁のような行政機関や、発言力があったり、グローバルにつながっていたりしている人しか力になることはできないと思っていました。しかし、今回の報告会を聴いて、高校生の自分たちでもできることはいくらかもあることがわかりました。

何より、「気持ち」の面では簡単に高校生でも関わることができるのではないかと感じました。地元のつながりを作るのも、原発や震災に対してネガティブに考えてしまうのも、逆にポジティブに捉えることができるのも、全ては一人ひとりの心の問題であり、それによって風評被害が起こってしまうのも、仕事に誇りが持てるのも変わってきてしまうのだなど、改めて複雑さは感じたものの、自分たちが周囲の人に、今回得た知識、考え方を少しでもいいから伝えることで、良い同調の輪・理解の輪を広げていけると感じました。

1 微力かもしれませんが、自分にできることに少しずつ取り組んで、復興に貢献できるような人になりたいです。

イギリスの高校生たちの発表を聞いたのはとても有意義だったと感じた。

パネルディスカッションで、何人かの意見を聞くことの重要性を感じた。

1 ハッピーロードネットの西本さんはすごい方だなと感じました。

私が発表やディスカッションを聴いて考えたことを書きたいと思います。廃炉作業を進める中で必要なのは原子力や放射線の知識よりもむしろ先進的な技術や革新的なアイデアだと思います。私は新旧避難指示区域を巨大な実験フィールドにし、実際に人が住んでいる中で企業や研究機関が工学や社会学などの様々な実験を行いながら副産物として廃炉に生かせるものを見つけていく、また、廃炉作業を進める中で副産物として得られた新技術を社会へ還元するための実験として新旧避難指示区域を利用するというアイデアを持ちました。幸か不幸か、新旧避難指示区域の多くは社会制度が一度崩壊し、新たな社会制度を取り入れやすくなっています。浜通りを「実験都市」として整備し、企業や大学、工業系高校などへ解放すれば、廃炉のための技術開発だけでなく、浜通りや福島県、ひいては日本全体の産業の飛躍へと繋がると思います。自分たちが産業へ貢献できていると実感できれば地域としての自尊心も高まるのではないのでしょうか。そして私がこれを思いついたのは、六ヶ所村でのお話を聞いた時です。六ヶ所村では原子力開発で得た技術を医学や工学という形で地域に還元しているという話を聞いて、その街で行っていることに加えてこれの全く真逆のことも行うととても効率が良いなと思いました。しかし問題点もあります。地域の方々には自分たちが実験台として使われることを快く思うだろうか、ということです。私が思いついた対処法としては、一部税金の免除や協力費の拠出、個人の負担無しでの最先端技術の試験的利用です。私のアイデアは先端技術の開発、土地の有効利用、地域活性化を土台に廃炉技術開発へと繋げていけるものなのではないかなと思います。

1

今日の会では、発表してくれた20人弱の生徒がどれほど時間をかけてどれほど熱い思いをかけていたのかが伝わってきました。自分はいこうすればいいと思う、と意見を述べる中で根拠としていくつかのデータが使われていたことから、下調べを入念に行ったことが感じられました。また、原発のブランド化というのは私にはなかった考えでしたし、そのほか福島に原子力を学べる大学を作るなども、多少課題はあるものの新たな意見として私も参考にしたいな、と思いました。

1

イギリスに実際に行ってきた方々の話を聞いていると、新しい視点を多く得られた。特に後半のパネルディスカッションでは、人それぞれに意見があることをした。廃炉のブランド化や、復旧力を強めるのが大切などの話は、今回の会に参加しないと得られなかった考え方だと思うので、参加して良かったと思う。一方で、説得力や拡散力をもたせた情報が大切だという話や、行動にうつすことの大切さなどの話は、以前から自分たちが考えていた事と同じだった。つまりこれらはよほど重要な考えだということなので、何より意識しなくてはならないと感じた。そして、イギリスの方の発表はやはり聞き取れなかった。これからはより一層リスニング力と単語力を鍛えなければいけないと思い知らされた。

1

日本とイギリスでプレゼンを行なったが、イギリスの高校生はとてもプレゼンが上手かった。台本を見る事なく、その場の雰囲気に合わせて面白い話も交えながら話す所が凄いと思った。また、パネルディスカッションを聞く事で様々な意見を聞くことが出来て、とても有意義な時間だったと思う。

1

少し時間が足りなかったせいか、より深いところまで討論できてないと思いましたが、浜通りの高校生がイギリス研修を通して何を思ったのかということを知り、私が放射線防護ワークショップに参加し終えた時の意見と比べることができて楽しかったです。

1

1 もう少し、風評被害の払拭の仕方について考えたかった

本当に多様な考えがあり、福島の復興のために真剣に取り組んでいる姿を見て、感動しました。私も福島県民として、社会に出た時に正しい知識を県外の方々に誇りを持って伝えられたらと思います。

2 関係ないですけど、イギリスの高校生みんな美男美女で本当は大学生とか社会人なんじゃないかなと思います

した笑

原稿を読まずにすらすらと自分の考えを述べる姿がかっこいいなと思いました。

8月の研修で自分がぶつかった壁と同じ、情報発信の壁に、今日の発表者もぶつかっていた。しかし、まだ決定的な解決策は見つかっていないように感じる。情報社会の今だからこそ、情報発信の問題は、これからの福島の鍵になると思うし、まだまだ話し合っていく必要があると思う。

最も印象に残っているのは、廃炉をもっとポジティブに考えることが必要だと言う意見だった。福島で原発事故が起こったからこそ、原子力専門の大学の建設や、こうした会を通して新たに学べることもあるし、実際に最新技術も開発されている。

福島の財産は、福島のために力を貸してくださる方々、高校生、こうした福島についての学び話深められる機会、そして、それを作ってくれる方々だと思う。今日初めて西本さんにお会いした。これからもついでいきたい、関わっていきたく思った。何故か。本気でいらっしゃるからだと思う。福島のために。子供たちのために。本当に感謝の気持ちでいっぱい。私は、震災前まで大人になったら、なんとなく福島を出たいと思っていた。しかし、震災後、こうした福島で頑張っている大人を見ると特に、自分も、福島で働こう、関わっていかうと強く思う。

福島の力に、また西本さんに恩返しができる大人に、成長したい。

2 ありがとうございました。

イギリスや青森の六ヶ所村に行ってきた浜通りの高校生のグループディスカッションは、自分の放射線に対する学びにとでもたくさん収穫がありました。イギリスでは、放射線を扱うということをネガティブに捉えている人が少なく、そのような関係の仕事に就いている人は誇りを持っていること、そして、セラフィールド社が支援している大学があり、そこで放射線について学び、それを伝えている学生達がいることにとでも感動しました。堂々と自分たちのふるさとに誇りと愛を持って紹介してくれたり、60年前の事故のことを詳しく教えてくださいました。イギリスの学生さん達をすごく、尊敬しました。私も福島についてそのように語る人になりたいと思いました。

2 ました。

Q6 今日発表してくれた生徒への応援・感謝メッセージを書いてください。

1 いろいろな意見やアイデアをありがとうございました。自分の視点を広げられたような気がします。

みなさんが5月から、もしかしたらそれ以前から、福島のことについて、これからの日本について真剣に考えてきたというのを今回の報告会でひしひしと感じました。福島のために働くために一生懸命学びを重ね、それを発表したみなさんの姿は自分なんかよりとても大人に見えて、じぶんよりもずっと先のことを見通しているのだなと思いました。みなさんが今日発表してくれたおかげで、私ももっと真剣に福島の未来について考えよう

1 と思えました。本当にありがとうございました！

私たちに、震災について改めて考える場を設けていただき、そして何より、新たな視点を与えていただき、本当にありがとうございます。

発表している姿からも、福島の復興や原発事故に対しての本気さが伝わってきて、正直圧倒されました。自分ではちゃんと福島について考えていたつもりだったけれど、それはやっぱり「つもり」で終わってしまっていたような気がしました。熱量といい、知識といい、本当に復興に真剣に向き合う姿を見せていただきました。自分自身も以前の行動を鑑み、そして、福島の復興に少しでも尽力できるような人になりたいとおもいます。

1 今回は貴重な経験・意見をありがとうございました。

皆さんが真剣に発表している姿をみて、私たちも考えさせられました。

1 この会を機に、廃炉について自分の考えを持つようにしたいと思います。ありがとうございました。

正直私は今まで浜通りについてこんなに深く考えたことは無かったし、自分の考えを持つということは出来ていませんでした。発表者の皆さんが私たちに思ったことのありのままを伝えてくれたおかげでこんなにも有意義に福島の未来について考えることが出来ました。素晴らしい発表をありがとうございました。そして、このような機会を私に与えてくださった全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

1

私が皆さんの発表を聞いて抱いた感想は、とても能力が高い、というのが一番です。それが、特に感じられたのはディスカッションの際で、多少原稿のようなものはありながらも、開沼さんや他の生徒の意見を素早く吸収し、頭の中で考えながら自分の意見を述べているといった印象を受けました。そういった能力は、場を踏まないと身につかないものだと思うので、皆さんの素晴らしいディスカッションは今までの経験で培ってきたものによってなりたったのだと感じました。

1

海外に渡っただけでも大変な事なのにも関わらず、自分たちのために発表の場を設けて下さりありがとうございました。

1

長期間の研修、お疲れ様でした。イギリスや六ヶ所村などに行った経験は決して無駄にはならないと思います。優秀な未来のリーダーになれることを、心からお祈りしておりますので、頑張ってください。

1

私達の代表として出てくれていた塩谷さんが本当に沢山の意見を出してくれていて、同じ学校の高校生がいないのにも関わらず、凄いなと思いました。お疲れ様でした。

1

部長お疲れ様です

1

皆様、発表お疲れさまでした。今回の会を通して福島県の人々の原発への意識に少しでも変化が出るようになること心から願います。

1

貴重なお話ありがとうございました。「大切なのは伝えることでなく伝わること」という話にはとても共感できました。

1

2 福島について深く考える機会を与えてくれて、ありがとうございました。お疲れ様でした。

2

みんなの前で発表するということはとても緊張するのに、あんなに堂々とディスカッションしていたことがとてもすごいことだと思いました。皆さんから学んだことを自分の知識として吸収し、広めていけたらいいなと思います。たくさん刺激を受けました。ありがとうございました。

2